

プロなら知っておきたいデザイン・印刷・紙・加工の実践情報誌

デザインひきだし 4

DESIGN NO HIKIDASHI

第1特集

抜き
折り 紙の加工で
こんなこと……
……できる!

連載・記事

表裏差のある
紙に うっとり。

巻末特集

初版限定特別付録

折り／抜き加工スペシャル見本＋
ホログラム2枚＋ふわふわな紙
＋最新箔押し＋表裏差のある紙11種類

機械でできる
もっと特殊な折りって、
どんなことができる？



日本でここまでしかできない
さまざまな折り加工

紙だからこそできるさまざまな加工を、社員一丸となつて開発、製作している会社がある。その名も美創印刷。
手にとつて思わず「おもしろい!」「なんだこれは!!」と声を出してしまうような、アイデアあふれる折り加工を数多く手掛けている。

1枚の紙とは思えない! 創意工夫を凝らした折り加工の数々 —— 美創印刷株式会社

どんどん何度でも開けてしまう、まるでおもちゃのような不思議な「フラッパー」を始め、1枚の紙を絶妙な折り設計と型抜きや糊付と組み合わせることのできる、さまざまな特殊折りを見てみよう!

取材/編集部 写真/弘田写真事務所

フラッパー

紙を半分に折ることによって次の面が開き、また折ると次の面へと、1枚のカードから4面が出現する不思議な折り。一見、どのような構造になっているのかわからないが、これは1枚の長方形の紙に切れ目を入れ、何カ所か糊付しているだけ。すべて機械で自動加工できる。「フラッパー」という名称で米国企業とライセンス契約しており、日本国内では美創印刷でしか製造できない。DMやカード、名刺などはもちろん、雑誌の綴じ込み付録等にも使用できる。



サイズは正方形タイプが1辺80mm/100mm/120mm/147mm/180mmの5種類、長方形タイプは名刺サイズの55×91mmや148×100mmなど6種類ある。これ以外のサイズは角丸などのカスタマイズは要相談

中でも代表的なものひとつが「フラッパー」だ。正方形や長方形の紙が何度でも何度もばたばたと折りがえらせることができるこのカード、数年前、ユニクロのフレイヤーとして使われたのを覚えている人もいるだろう。また「フォールディングマップ」や「スライドメディアカード」、本誌「綴じ込み付録」としてついている「ジグボツプ」など、どれもパテント登録し、美創印刷しかつくることのできない、個性あふ

れる折り加工ばかりだ。「一枚の紙にどういう付加価値がつけられるかを、いつも考えています。考えついた加工を、機械でできるか現場に聞いてみると、大体できる。ちよつと面倒なものも、一升瓶を真ん中において話をすれば、翌日にはできてますね(笑)」と、同社社長の村上さん。そんな職人魂あふれる現場で、どんな紙の加工ができるのか。その一部をご紹介します。



これがひとつのフラッパーの中に隠れている4つの絵柄。半分に分けていくことで、次々と違う面が表れる。どんどんと開くのが癖になりそうな、不思議なカードだ



こちらが基本形。開くと表7面、裏7面になる

マルチリーフ

一見、型抜きされた紙がいくつか折り畳まれているのかと思いきや、両端をつかんで引っ張ると、非常に複雑に何面もの大きな紙になるという、驚きの折り。地図などに使用されるミウラ折りが有名だが、ミウラ折りの開くと矩形の紙になるとの違い、こちらは亀甲のように型抜きされた紙が表れるのだ。



こちらは表裏とも13面になる、大型タイプ

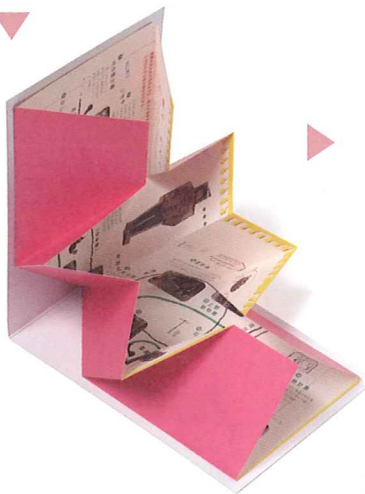
フォールディングマップ



2つ折りになっている紙を開くと、中からもとの倍以上の大きな紙が広がってくる「フォールディングマップ」。開け閉めしやすく、地図やフライヤーなどに非常に便利。基本サイズはカバーが132×90mm(中面は252×190mm)、91×55mm(172×105mm)、150×100mm(288×210mm)の3タイプ。これ以外のオリジナルサイズは型代が必要になる。



2つ折りのカバーを開くと、折り畳まれていた中面が開き、大きな誌面が表れる



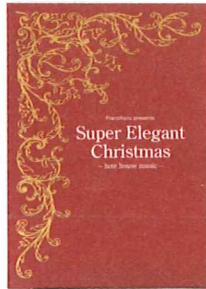
美創印刷株式会社 代表取締役社長の村上一宏さん。村上さんと社員で、ここに掲載した以外にもさまざまな折り加工を考案している



カバーは上記のような2つ折りタイプと、このような3つ折りタイプの2種類が基本的に用意されている



FrancFrancの2007年クリスマスソングのCD。赤い表紙を開くと、黒のステキなデザインのポップ部分が表れる。実際には右上の丸い部分にCDが入られている(円形中央にCDの留め具が付いている)



スライドメディアカード

CDやDVDのケースはさまざまあるが、このスライドメディアカードは、2つ折りのカードを開くと、CDの挟まった円形ポップが飛び出てくるというもの。これも紙を型抜きして成形しているだけだが、CDが非常に取り出しやすい構造になっている。CDが1枚入るものは正方形、長方形の2タイプ、2枚入るタイプもある。



真ん中のミシン目で少し折り曲げると「バキッ」と音がして、表面の紙が切れる。その上で左右に引っ張ると、中から別々の紙面が表れるのだ

問い合わせ

ここで紹介した特殊折り/加工の詳細や、他の特殊加工については
<http://www.bisoh-p.co.jp/>
 直接の問い合わせは下記販売代理店へ
ジー・ビー・エス株式会社
 03-5765-5035
株式会社キングコーポレーション
 052-444-7161
河原紙器株式会社
 0568-82-1011
弘久写真工業株式会社
 042-536-3511
アシヤ印刷株式会社
 0792-81-0022
株式会社シスマック
 03-3986-9075
株式会社ワンズベスト
 06-6355-2113

オープンカード

一見、ちょっと厚めのただのカードかと思ってしまうが、実は真ん中にミシン野が入っており、カードを左右に引っ張ると、中から新たな紙面が出てくるというしかけ。これも1枚の紙からできており、もちろんすべて機械作業でできあがってしまう。DMなどにも使用でき、デザインアイデア次第で、非常におもしろ使い方ができそうだ。

ウィンドウ



サイズは220×200mm(窓部分は73×44mm)が基本。それ以外は型代がかかるものの、カスタマイズすることも可能だ

一見、ふつうの2つ折りのカードに見えるが、開いて中面を見てみると、6つの小窓があり、そこを開くと、新たな面がでてくるというもの。こうなっていると、小窓をついつい開きたくてしまう。これももちろん1枚の紙からできており、機械ですべて自動加工できるのだ。



その名刺用紙を最初につくったのが、美創印刷。マイクロミシンと呼ばれるこの細かいミシン目は、切れやすいのは便利だが、反面、紙の伸縮で切れてしまうなど、安定した加工ができるまで三年はかかったそうだ。現在では名刺以外にもCDケースの台紙など、他のラインナップも揃っている。

自分のプリンタで名刺をプリントするときには便利な、非常に細かいミシン目が入ったプリント用紙をご存知だろうか。普通のミシン目と違って非常に目が細かいため、切り取った後がきれいなのが特徴だ。

プリンタ用名刺台紙はここでつくられている！

美創印刷×D-KNOTS ジグポップ



D-KNOTS(ディー・ノッツ)

荒川慎一と佐藤有によるデザインユニット。2007年から活動開始。書籍やムック、CDジャケット、広告など、幅広い分野のデザインを手掛けている

<http://d-knots.com/>



これが美創印刷の折り機。さまざまな折りや糊付など、ユニットのセッティングをさまざまに組み合わせることで、ジグポップを始め、前ページなどでもご紹介したさまざまな折り加工を実現している

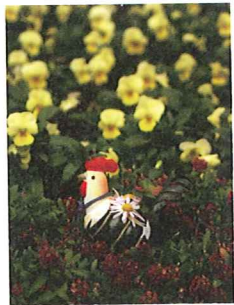
紙の端を持って横にひっぱると、真ん中にある山が開いて、ビヨーンと伸びる。言葉で聞くと「なんだそれは!?!」と思うかもしれないが、まずは八十ページの後

に付いている、特別付録三枚目を実際にジグポップ、実際にご覧あれ!

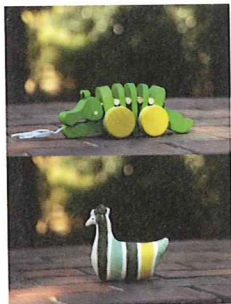
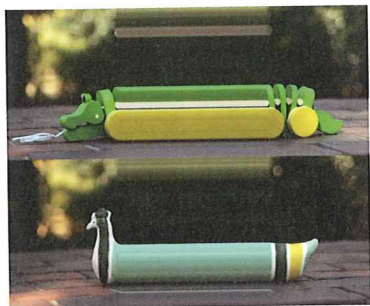
紙の端を持って横にひっぱると、真ん中にある山が開いて、ビヨーンと伸びる。言葉で聞くと「なんだそれは!?!」と思うかもしれないが、まずは八十ページの後

引っ張って、試してもらいたい。このおもしろい紙加工が、美創印刷の「ジグポップ」だ。元は一枚の紙。その表裏に印刷をし、紙の一部に切れ目を入れて、折り加工がされているだけ。加工としては特別なものは何もないが、構造自体が非常に面白い。書籍や雑誌の付録はもちろん、これ単体でカードにしたりと、使い方はいろいろと応用できる。

デザインデータ



ジグポップをデザインする際は、美創印刷のWebサイトからダウンロードできるテンプレートを使用して、展開図をつくってもいいし、今回のように閉じたところと開いたところのデータを作成し、後は美創印刷へまかせてもよい



上が表面、こちらが裏面のデザイン。ジグポップの「ページが伸びる」という特徴を活かして、引っ張るとそれぞれの絵柄がビヨーンと伸びる

実物はP.80の後に綴じ込まれています。(付録①②の記事はP.80に)